

堺市民対象ソフトボールスクール



DATA

●主な連携先・メンバー

小田伸午（関西大学人間健康学部教授）／吉末和也（関西大学体育会ソフトボール部監督）／関西大学体育会ソフトボール部員

●活動地域

関西大学堺キャンパスエバークリーン／体育館／食堂

●活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業

活動の目的

- 1 研究の成果を堺市の選手や指導者に還元する
- 2 支援学級中学生および中学生を対象に関西大学体育会女子ソフトボール部員が指導に当たり、ソフトボールの指導技量、人格の向上を図る

連携にいたる経緯

2010年に堺キャンパスを活動基盤にする体育会女子ソフトボール部が生まれ、翌年に小田が堺キャンパスに赴任し、堺市と連携して大学の研究成果、部活動の力を堺市民に還元するソフトボールスクールが始まった。

活動内容

〈ソフトボール交流教室〉

実施プログラム

09:30 開講 09:40 レクリエーション 10:10 ソフトボール紹介

10:30 バッティング 11:00 ミニゲーム 11:30 閉講

〈ソフトボールスクール〉

実施プログラム

13:00 開講 13:10 ウォーミングアップ

13:30 ソフトボール選手にとって知っておくと得をする力発揮の講習（小田）

14:30 投げ方と捕球体勢、キャッチボール、ノック

15:00 打撃練習（素振り／ティーバッティング）投手は投球練習場で投球練習

15:30 講評・閉講



活動の成果

- 1 支援学級中学生対象の交流教室では、レクリエーション、バッティング、ミニゲームを通じて、受講生は、受講生同士および、大学生部員との心の交流を楽しんでいた
- 2 中学生対象のソフトボールスクールでは、体の使い方の基本レクチャー（小田）、投打、投手の技術練習（監督、ソフトボール部員）の講習を通じて、受講生は新しいからだの使い方を楽しく学び取り、成果を上げた
- 3 大学生が個人的に中学生にコミュニケーションを図ることで、楽しく真剣に取り組む教室ができた

今後の課題・目標

- 1 小田によるからだの使い方の講習内容とソフトボールの技術講習との関連性をより一層明確にして技術指導をすることに努めていきたい
- 2 ソフトボール部員のコミュニケーション能力をより一層磨いていただきたい
- 3 参加者全員の講習内容の希望を叶えるのは毎年難しいが、多くの内容ができない分、短い時間で絞った内容の講習に満足感を覚えてもらうことでカバーしたい

●教員紹介



人間健康学部 教授 小田 伸午（おだ しんご）

人間の身体運動やスポーツに関する運動制御機構を心理、生理、物理の各方面から総合的に研究している。主な著書に『スポーツ選手なら知っておきたい「からだ」のこと』（大修館書店）、『一流選手の動きはなぜ美しいのか』（角川学芸出版）などがある。スポーツ関係者、理学療法関係者、中高齢者などを対象に、各地でからだの使い方の講演、講習会を行う。